

平成22年 11月25日(木)

越谷市郷土研究会・創立45周年記念・第410回 史跡めぐり

晩秋の東京の水辺、
隅田川十二橋めぐり、
将軍家庭園、新橋汐留を歩く

隅田川と東京スカイツリー



NPO 法人越谷市郷土研究会

第410回 史跡めぐり

隅田川水上バス、將軍家庭園、新橋汐留をめぐる。歩く距離約5Km

実施日 平成22年11月25日(木)

参加費 3000円(交通費、入園料、乗船料、保険料等)

集合 越谷駅東口

時間 午前8時20分集合 電車出発8時57分

コース 越谷駅 — (東武電車) — 浅草駅 9:30 着

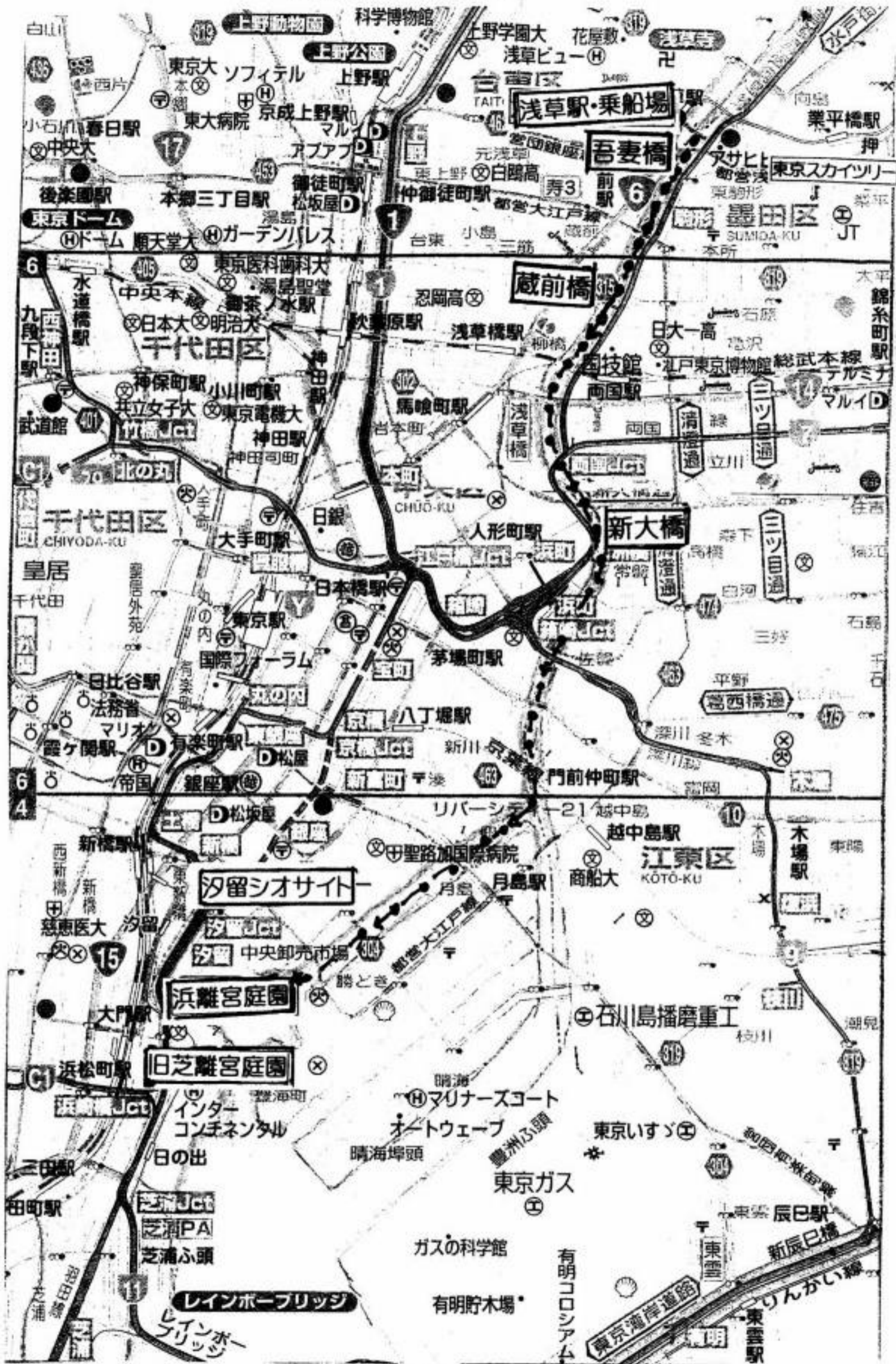
- ① 遊覧船に乗船 10:00 発(隅田川水上バス) → 浜離宮で下船 10:40 着
- ② 浜離宮恩賜庭園見学 10:40~11:45
- ③ 旧芝離宮恩賜庭園見学 12:00 ~ 12:45
- ④ 東京汐留ビルディング2F 自由昼食 1:00 ~ 2:00
- ⑤ 汐溜シオサイト日本テレビタワー(日テレPLAZA) 2:00 ~ 3:00
- ⑥ 旧新橋停車場 3:00 ~ 3:30
- ⑦ 新橋玉木屋(ちよとお買物)天明2年創業・佃煮の老舗

日比谷線 東銀座駅 4:00 頃 → 直通 越谷駅 解散 5:00 頃

案内者 常任理事 渡辺 和照

理事 田端 功政

隅田川と新橋の地図



東京水辺ライン

隅田川水上バス(約40分間)の遊覧船から眺められる風景

東京スカイツリー(墨田区押上業平地区)

2012に開業予定の東京スカイツリー(完成の高さ634m—むさし)、日々建設が進んでいます。

2010年10月に480mの高さになりました。

浅草から浜離宮までに通過する橋と川べりの風景

① **吾妻橋** 150.3m

安永3年(1774)架橋。昭和6年(1931)現在の3径間上路式アーチ橋、江戸時代の大川橋



② **駒形橋** 146.3m

昭和2年(1927)架橋。厩橋や清洲橋などと、関東大震災の復興計画で造られた。

③ **厩橋** 151.4m

明治7年(1874)架橋 昭和4年(1929)現在の3径間タイド・アーチ橋、支柱の上に馬のステンドグラスがある。



④ **蔵前橋** 173.4m

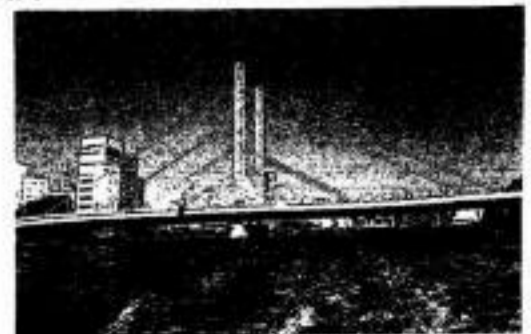
昭和2年(1927)架橋。3径間上路式アーチ、橋の黄色は、蔵前にちなんで初殻をイメージした。

⑤ **両国橋** 164.5m

万治2年(1659)架橋 昭和7年(1932)現在のゲルバー式桁橋に、武蔵と下総を結ぶ橋なので「両国橋」と命名。花火と相撲のモチーフが見られる。

⑥ **新大橋** 170.0m

元禄6年(1693)架橋 昭和53年(1978)現在の斜張橋に。橋柱には、広重の「大はしあたけの夕立」と「お助け橋」のレリーフがある。



⑦ **清洲橋** 186.2m

女性的な美しさから、隅田川の橋の中でも人気が高い。

⑧ **隅田川大橋** 391.7m

昭和54年(1979)架橋。箱桁橋。上が高速道路、下が一般道路になっている。

⑨ **永代橋** 184.7m

元禄元年(1688)架橋 大正15年(1925)今のバランス・タイド・アーチ橋に。



⑩ **中央大橋** 215.0m

平成5年(1993)架橋。斜張橋。セーヌ川にある物と同じブロンズ像「メッセンジャー」が東京の姉妹都市・パリから贈られ上流側の橋脚に据えられている。

⑪ **佃大橋** 576.3m

昭和30年(1955)架橋。連続箱桁橋。この橋の完成で、「佃の渡し」も廃止された。

⑫ **勝鬨橋** 246.0m

昭和2年(1937)架橋。3径間アーチ式。大型船の通行時には橋の中央が跳開する可動橋だが昭和45年以後は開閉していない。

隅田川の左岸に見られる風景

☆ 芭蕉庵史跡展望庭園と万年橋

松尾芭蕉の書簡や俳文学の資料を展示した芭蕉記念館がある。

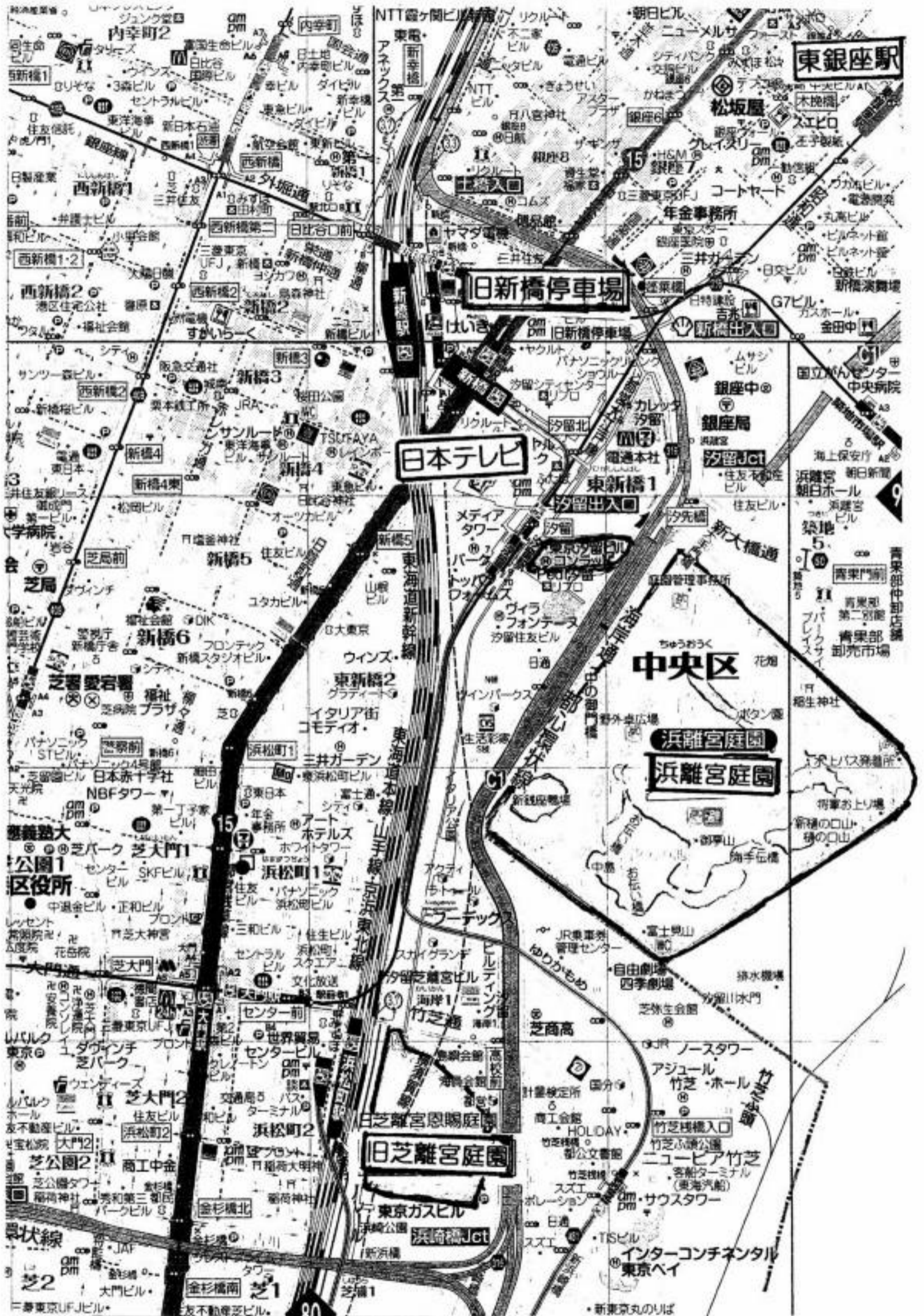


☆ 石川島の灯台

1866(慶応2年)隅田川河口や品川沖を航行する船舶の安全のため建設された。

それを復元した灯台です。

新橋の地図



庭園の見所

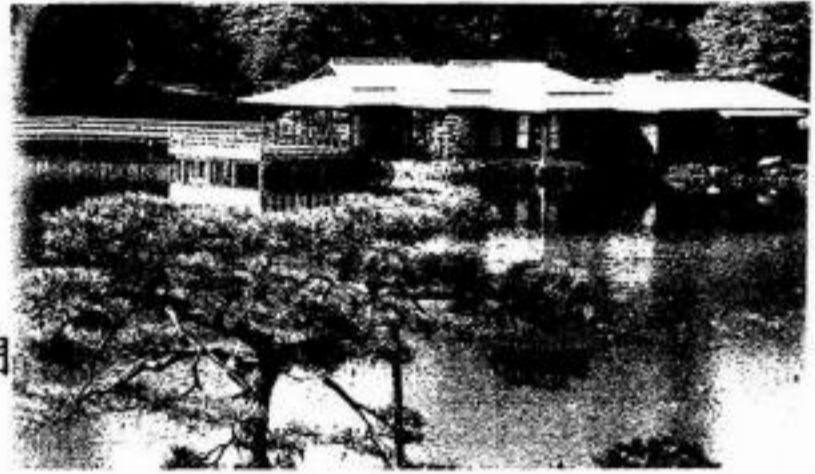


① 三百年の松

六代将軍・家宣が庭園を大改修した際に、その偉業をたたえて植えられた松といわれるもの、太い枝が低く張り出し、威風堂々としている。

② 中島の茶屋、お伝い橋

宝永4年(1707)に造られて以来、将軍の御座所として晴れの場所であった。将軍はじめ奥方達がここで泉水を眺めて和歌を詠み、宴を張った。グラント将軍(米第十八代大統領)が明治天皇とここの一室で会見した。



③ 大泉水

庭園中心をなす広さ約八千坪の大泉水。水門によって海水をみちびく、いわゆる「潮入り」の手法を取り入れており、潮の干満によって池の水位を変えて風情を変えて目を楽しませる。



④ タブノキ

園内に大きな存在を示しているタブノキは、火災に強く、海風にも強い特徴を持っています。浜離宮には1000本もあるといわれています。

⑤ 可美真手尊(うましまでのみこと)の銅像

明治27年に、明治天皇の銀婚祝賀に際して陸軍将校が献上、「尊」は、神武東征のとき、いち早く帰順して、物部一族を率いて従軍、天皇即位に功績あったと伝えられる神話の神。



⑥ 鴨場

園内には、康申堂鴨場(1778年築造)と新銭座鴨場(1781年築造)の2つある。

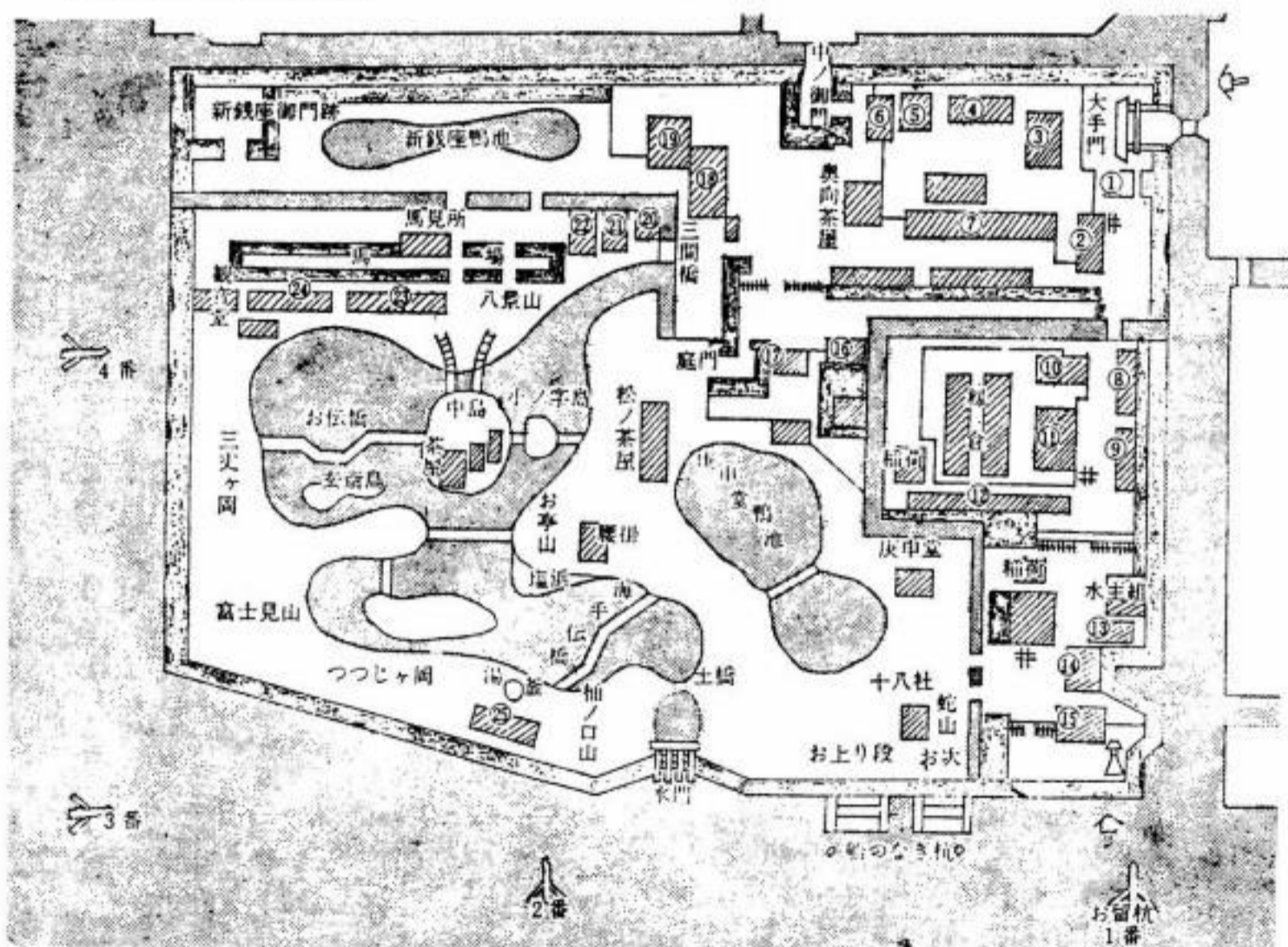
鴨池を3mの土手で囲い、土手には鴨が安心して休息できるよう常緑樹や竹笹が植えられている。引き堀と覗きが作られている。

浜離宮恩賜庭園

浜庭園は、承応3年(1654)、徳川綱重が兄の4代将軍・徳川家綱より拝領し、江戸湾の一部を埋め立てて屋敷を建てたことに始まります。その後、甲府藩下屋敷として使用され「甲府藩浜屋敷」「海手屋敷」と呼ばれた。6代将軍家宣(綱重の子)のとき、将軍家の別邸「浜御殿」となる。その後、庭園の改造・改修工事が続き、11代家斉将軍のころ、ほぼ現在の姿になった。明治2年(1869)に、外国人接待所として石造洋館「延遠館」が建設され、維新後は皇室の「離宮」となった。延遠館は鹿鳴館が完成するまで国の迎賓施設として利用された。

大正期以降は、関東大震災により大手門の崩壊や戦災で貴重な建物を焼失した。戦後、東京都に下賜され、整備のうえ昭和21年に一般公開された。

文化年間の浜御殿



- ① 渡り櫓
- ② 大番所
- ③ 総御同勢
- ④ 御供溜り
- ⑤ 御畳方
- ⑥ 仮番所
- ⑦ 御掃除者長屋
- ⑧ 東御所

- ⑨ 北長屋
- ⑩ 小普請方
- ⑪ 小普請方役所
- ⑫ 御蔵代長屋
- ⑬ 番所
- ⑭ 御船蔵
- ⑮ 船番所
- ⑯ 馬見場

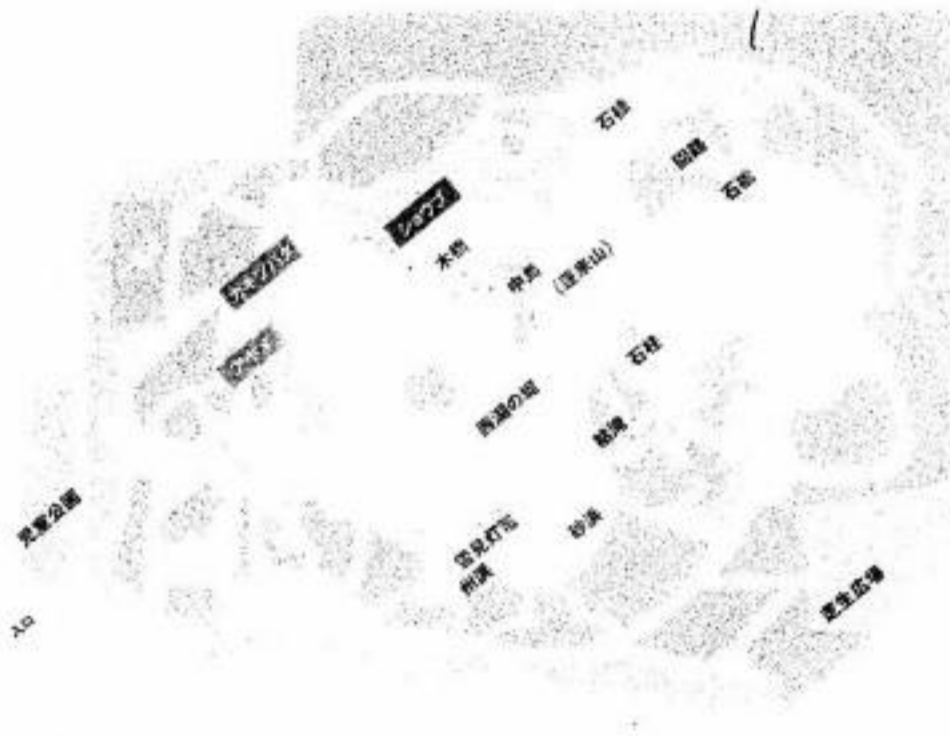
- ⑰ 御庭役所
- ⑱ 御殿奉行役宅
- ⑲ 南御長屋
- ⑳ 番所
- ㉑ 御鷹方
- ㉒ 御用所
- ㉓ 御膳所
- ㉔ 奥向休息所
- ㉕ 海手茶屋

旧芝離宮恩賜庭園

東京に残る最も古い大名庭園のひとつである。

延宝6年(1678)老中であった大久保忠朝が4代将軍・家綱から邸地を拝領し、そこに屋敷を築き、「楽壽園」と名付けた庭園を造った。忠朝が中国趣味を加えた庭園である。

その後、いくつかの大家の所有を経て、明治期は、離宮として利用され、迎賓館の機能をはたした。大正13年(1924)に東京市に下賜されて、一般公開され、現在に至っている。昭和54年6月国の「名勝」に指定された。



① 西湖堤

中国杭州の景勝、西湖の蘇堤を模した石造りの堤。古来、詩歌や絵画の題材として珍重された。



② 州浜

鉤形の入り浜を左右から張り出した地形が両腕に抱く形になっている。州崎に見える地形は紀州徳川家時代の図面でも岬の島とつながっている。往時は干満によって岬の先端は島となったり陸地となったりした。



③ 大山

庭園で一番高い築山である。明治期までは房総半島、筑波山、富士山が眺められた。



④ 蓬莱山(中島)石組

中国で仙人が住むといわれる「蓬莱山」を表したのが中島です。中島の石組は築庭当時のままです。

④ 石柱

茶室の柱に用いるために小田原より運ばれてきたといわれています。



昼食は各自で 1:00~2:00

東京汐留ビルディング2F お好きなお店でどうぞ

ご参考

- 1 十和田高原豚の豚丼——820円
- 2 焼き鳥親子丼——850円
- 3 まぜうま丼——900円
- 4 特選親子丼——750円
- 5 鶏照り焼き丼——760円



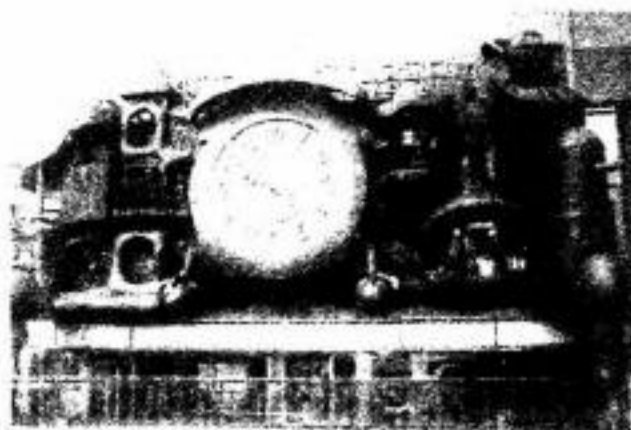
汐留サイト

JR新橋駅すぐ近くの「旧国鉄汐留貨物駅跡地」を利用した都内最大規模の再開発都市『汐留シオサイト』。日本テレビ本社ビルをはじめ、レストラン、ショップ、シティホテル、などの高層ビル13棟やイタリアヤをイメージした街です。

日本テレビ

日テレ大時計

宮崎駿監督がデザインした大時計。
仕掛けあふれる楽しい時計がマイスタ広場
で時を知らせています。



ゼロスタ広場

ランチタイムやティータイムを気分よく過ごし、日テレイベントの中心地です。

旧新橋停車場

この建物は、1872(明治5)年10月14日に開業した日本最初の鉄道ターミナル新橋停車場の駅舎の外観を、当時と同じ位置に、できるだけ忠実に再現したものです。

新橋停車場の駅舎は、アメリカ人ブリジェンスの設計による木骨石張りの構造で、西洋建築がまだ珍しかった時代の東京で、



鉄道開業直後に西洋風の建物として偉容を誇っていました。

1914(大正3)年、新設の東京駅に旅客ターミナルの機能が移り、貨物専用駅となり汐留駅と改称され、物流の大拠点として戦前戦後を通じて東京の経済活動を支えた。

1923(大正12)年の関東大震災に際して火災のため焼失し、1934(昭和9)から始まった汐留駅改良工事のため、残存していたプラットフォームや構内の諸施設も解体された。

1986(昭和61)年、汐留駅はその使命を終え廃止され、跡地の再開発工事が始まり1996(平成8)年、駅舎とプラットフォームの一部の遺構が史跡「旧新橋停車場跡」として国の指定を受け、駅舎を再建することになったものです。

新橋玉木屋

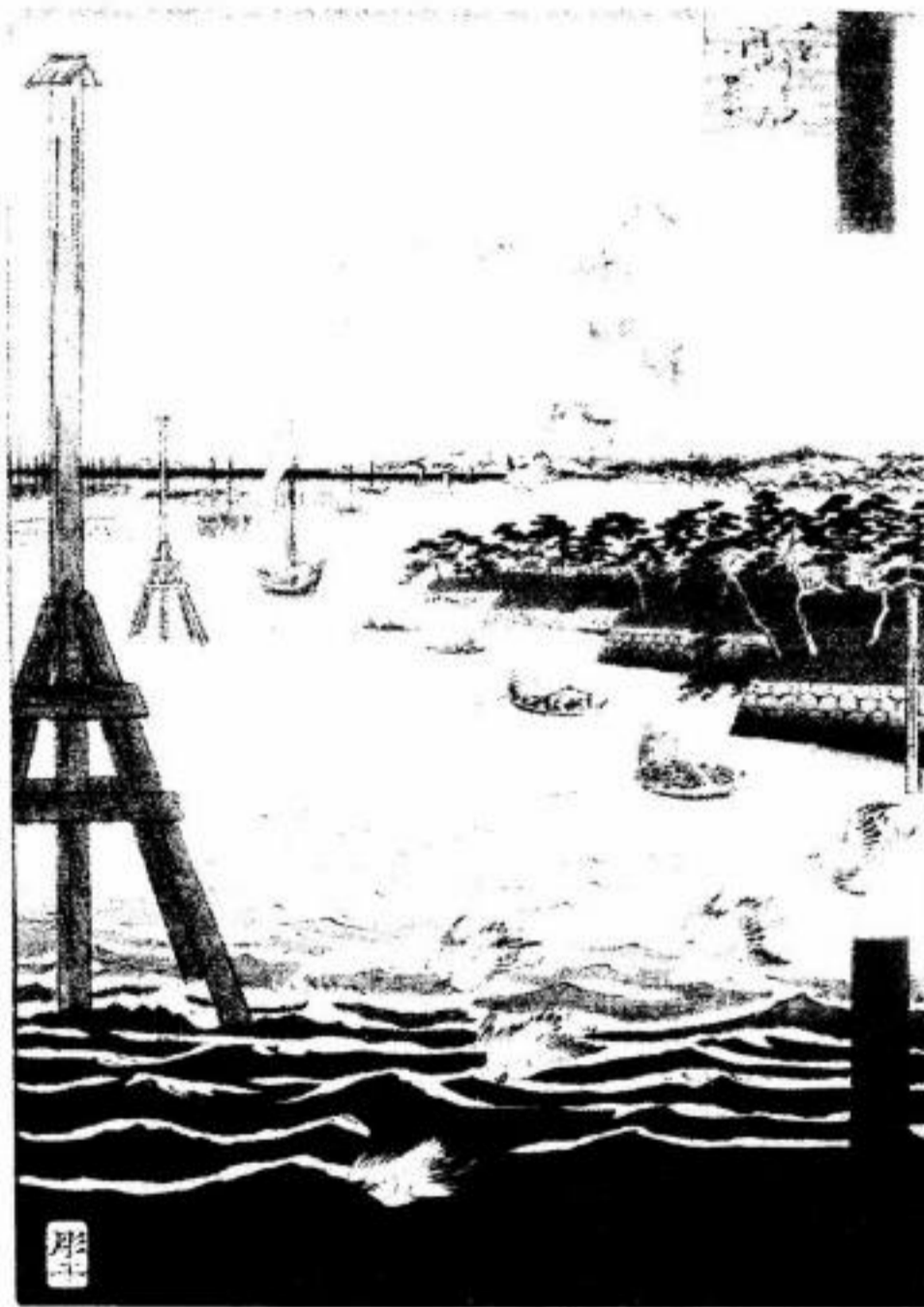


天明2年(1782)創業の煮豆・佃煮の老舗。黒豆を砂糖味で甘く煮た「座禅豆」、佃島の漁民が作っていた保存食に工夫を重ねて完成させた江戸前佃煮まで、昔とかわらぬ味と香りで愛されている。

名所江戸百景「芝うらの風景」安政4年頃の版画

歌川広重(1787~1858)の浮世絵

画面右手に見える松の生えた石垣は、現在の浜離宮恩賜庭園。空から舞い降りてくる鳥の群れは、都鳥とも呼ばれたユリカモメともいわれる。画面左の海中から立っている杭は、御留杭(禁漁区域を示す)です。



<次の資料から引用しました>

- 1 墨田川を歩く 雫子順信著
- 2 東京都の歴史散歩 下(下町) 山川出版社
- 3 水辺さんぽ 交通新聞社
- 4 浜離宮庭園 小杉雄三著 東京都公園協会